

第1回 丹波篠山 山城ネットワーク会議 活動報告

高城山へ登ろう会 山口 喜昭

2025.6.26



第1回 高城山へ登ろう会 2013.5.5



市の谷コース整備 2014.4.13



「波多野秀治公表忠碑」案内板設置 2019.12.1



高城山7コースに挑戦 殿町松谷寺前 2020.3.16



市の谷コース 駐車場完成 2020年10月



丸太橋3ヶ所架け替え 2021.2.27



高城山頂二の丸跡に「案内板」2022.4.4 完成



丹南児童館の子供たち 山頂二の丸 2023.3.27



山頂からの雲海 東方面 2024.11.20

「高城山へ登ろう会」幹事

山口 喜昭さん(74) 丹波篠山市野々垣

戦国時代、織田信長による「天正の丹波攻め」で、明智光秀に立ち向かった武将・波多野秀治が拠点とした山城・八上城の跡が残る高城山(462m)。山口喜昭さん(74)は「丹波篠山市野々垣」は「丹波富士」とも呼ばれ、愛されてきた地元の名峰をより多くの人々に知ってもらおうと設立された「高城山へ登ろう会」の幹事を務める。地域を盛り上げようと、ほかにもさまざまな活動にかかわるが、「私の人生、思いつき」と冗談めかし、その取り組みはあくまで自然体だ。

「登ろう会」では毎年新緑のころに登山会を開催。市民や京阪神からの参加者と山頂を目指す。登山道は「コースあり、最もなたらかで清流沿いにある」「野々垣市の谷コース」を約1時間歩く。道中のポイントで、地元に残る伝説などを解説し、戦国時代に思いをはせてもらう。5年前には、登山道「コースすべてを1日で走破する」というハードなイベントも実施。近年は、山上から雲海を

眺める早朝登山会も、晩秋に企画している。

野々垣生まれで篠山産業高校を卒業後、京都・伏見の大手酒造会社「月桂冠」に就職。営業畑を歩き、四国支店長を務めるなど国内各地に赴任し

た。故郷を離れ、帰省時に見る高城山の姿は「出迎えてくれているよう。ほっとした気持ちになった。丹波篠山のシンボル」と力を込める。

定年退職で2010年に実家に戻り、高城山の麓で再び



KOBE-NRCOJP

＜熱中 丹波びと＞「高城山へ登ろう会」幹事 山口喜昭さん(74) 自然体で地域を盛り上げ

高城山を背にした山口喜昭さん。江戸時代、山には落着いたとあり、収穫されたマツタケが幕府へも献上されたという。丹波篠山市内。

自然体で地域を盛り上げ

熱中 丹波びと

暮らすことに。少年時代、子ども会の行事で登った愛着深い山。もっと親しんでみたいと、13年に「思いつき」告知ちらしを作成し、初の登ろう会を開くと好評だった。翌年から、仲間と登山道整備などに地道に取り組んできた。各種団体からの「登山コースを案内してほしい」との依頼にも応じている。

地元公民館で、住民らが軽トラックに「土産品や農産品」などを並べ販売する「野々垣カレッジセール」も主催。一方、丹波篠山市出身者でつくる「多紀郷友会」の会報「郷友」にたびたび寄稿。少年時代の思い出などを基にした小説「丹波の山猿」を発表するなど文筆活動にもいそしむ。

自宅の一部を改修した「屋根裏きやうり」には、月桂冠の看板や旧国鉄・篠山線の駅名標、デカンショ節のちやうちんなど、多様な品を並べ、音楽ライブも企画した。

「これからも無理せず、好きなことをやっていきたい」

(堀井正純)



高城山へ登ろう会協力隊 2025.4.29



登山道整備 2025.4.29



登山道整備 倒木処理 2025.4.29



第13回 高城山へ登ろう会2025.5.4 51名参加



山頂で、デカンショ踊り 2025.5.4



二の丸跡から、市街地望む 2025.5.4

「雲海に会えるかい」予定 11月22日(土曜) 6時30分集合





終

篠山城跡から八上城跡・高城山望む